

ヤマト運輸（株）長岡主管支店

訪問日：平成 16 年 11 月 11 日

訪問班：物流システム班（松本）

分類別：復旧・復興状況

キーワード別：道路、輸送、交通ネットワーク

調査結果

- (1) 県内は新潟と長岡の 2 箇所にターミナル設置する。長岡ターミナルの配送圏は、中越から上越市までであり、小千谷、栃尾、小出、六日町、塩沢、十日町、津南等に拠点をおく。拠点への輸送では、警察に通行規制を聞きながらルートを決めた。魚沼方面へは、柏崎―柿崎、国道 253 号、八箇峠を通行した。柏崎、鯨波付近で渋滞があった。
- (2) 地震発生 23 日、長岡―群馬が不通になったので、上信越道、長野周りに迂回して群馬へ行った（通常、時刻制約の中で輸送しているので、高速道路を使用する）。その後、従業員の被災のため、仕分作業ができず、長野ターミナルで仕分してもらった。糸魚川・能生の荷物を富山で仕分してもらった。長岡ターミナルからは 10 月 25 日から配達をした。
- (3) 従業員 1,000 人のうち、被災したのは 161 人。地域によっては 20%が被災した。
- (4) 集配トラック運転手との通信は携帯電話で、メールにしてオペレーターに送信する（5 年前から無線は使用しないようになった）。携帯電話は地震直後に使用できなかった。24 日まで長岡サービスセンターが停止したので、新潟のサービスセンターに移管（転送）してメールを発信した。25 日 13:00 に復帰した。
- (5) 全国の自治体から約 1 週間、救援物資、大型車 2 台分の物資が長岡へきて、長岡、小千谷、川口、山古志等へ別部隊で輸送した。関東・東北のヤマトから 20 人、車 10 台分の応援がきて、別部隊となった。規制除外のマークを取得できることを知り、申請して通行した（20 台位のマーク）。
- (6) 和南津トンネルの開通後 11 月 2 日、群馬へルートを戻した。高速道路の開通も早かった。
- (7) 消雪パイプの被害が心配である。
- (8) 危機管理マニュアルはできている。しかし、地震は今回始めて体験したので、対応を整理してマニュアルの改訂に反映させる。